

低空頭狭隘地対応山留壁工法 LHBW工法

NETIS登録番号：(旧) KT-07088

日本ジオス株式会社

〒532-0011 大阪市淀川区西中島3-10-13 物産ビル3F

TEL 06-6885-7781 FAX 06-6885-7782

URL <https://www.nihongeos.com/>

mail HP内問い合わせフォームあり

[拠点] 東京支店(〒271-0051 千葉県松戸市馬橋2303-1 TEL.047-309-4771、FAX.047-309-4772)



低空頭狭隘地施工対応 LHBW掘削機

空頭制限・狭隘部での施工事例

概要

LHBW工法とは、キャタピラーを付けたベースマシンに5軸ドリルを搭載し、機動性を確保しながら山留め壁を構築する工法である。機械高を抑えているため、4m^{*1}の超低空頭環境での施工も行うことができる。ドリルは5軸あり、従来機械よりも作業時間の短縮を図ることができる。

※1 4mの施工はLHBW2号機・3号機のみ可能。

特長

1. 超低空頭(4m)での施工が可能

LHBW工法の強みは超低空頭(4m)での施工が可能なことである。高架下や地下、橋梁下など、すでに既設建造物がある現場での作業に力を発揮する。

2. 等厚壁により芯材ピッチの変更ができる

専用機は、5軸ドリルを搭載し、小判形に掘削ができ等厚な壁を形成できるため、芯材ピッチを変更することができる。また、連続性もあり、止水性にも優れている。

3. 狭隘部では縦掘が可能

狭隘部では機械が作業するスペースも確保できないことがあるが、斜め掘削を行えるLHBW工法専用機は効果を発揮する。ドリル本体を直角にセットし、縦掘が可能のため、作業帯巾が5m程度の狭隘部でも施工することができる。

掘削機の種類・用途

[LHBW 掘削機 概要寸法]

| | 高さ mm | 幅 mm | 長さ mm | 壁厚 mm |
|-----|----------|---------|----------|-----------|
| 1号機 | 5,300 | 2,490 | 6,901 | 600~800 |
| 2号機 | 3,950 | 2,840 | 7,480 | 600~800 |
| 3号機 | 3,650 | 2,800 | 7,980 | 800~1,000 |

※長さ=施工芯~掘削機後端まで



LHBW1号機

- ・空頭制限6mの現場でも施工可能
- ・幅が2.5mと狭いため、狭隘部での作業に最適
- ・壁厚600~800mmまで対応可能



LHBW2号機

- ・空頭制限4mの現場でも施工可能
- ・低空頭に対応しながらも、壁厚は1号機と同じ600~800mmまで対応可能



LHBW3号機

- ・機械高は2号機よりさらに20cm低いことで超低空頭での施工が可能
- ・低空頭に対応しながらも、壁厚は2号機より向上し、800~1,000mmまで対応可能
- ・ロータリーカッター仕様

適用現場例

- ・高架下や地下、橋梁下など施工が空頭制限のためできない
- ・線路内や地下など狭隘部の作業に入る機械が見つからない
- ・難しい場所での山留め工事を行いたい



線路内



高架下



橋梁下



路下